林業用語の基礎知識－「〇〇伐」－

佐藤弘和

「〇〇伐」はどれくらいの種類があるのか

森林・林業の研究者や関係者にとっては，主伐，間伐，受光伐といった「〇〇伐」という用語を当然のように使っています。しかし，筆者も含め主伐，間伐は知っているけど，知らない「〇〇伐」という用語もあるという林業関係者がいるのではないでしょうか。いつしか，森林・林業分野で使われている「〇〇伐」は，どれくらい種類があるのか興味を持つようになりました。

そこで，「〇〇伐」という用語を調べてみることにしました。〇〇伐は，論文や報告書を書く上でも知っておくべき用語です。最近では用語を調べるのにネット検索が主流になっていますが，検索数が膨大になると，かえって知りたい情報に至らないこともあります。そこで，ネット検索ではなく，まずは『広辞苑』を使いました。ただし，分厚い『広辞苑』を最初のページからめくり，「〇〇伐」を抜き出すのは骨の折れる作業です。この問題は，電子辞書版『逆引き広辞苑』を利用することで解決します。『逆引き広辞苑』は，「伐」と入力すれば，伐の付いた用語がリスト表示されます。あとは林業に即した用語を抜き出すだけです。

伐る・切る・斬る・剪る・截る

「〇〇伐」の検索結果を示す前に，「きる」という漢字に着目しました。木については「切る」より「伐る」を使います。「きる」という漢字には，「伐る」「切る」「斬る」「剪る」「截る」があります。デジタル大辞泉（電子辞書版）によると，“広く一般的には「切る」を用い，人などには「斬る」，立木などには「伐る」，枝・葉・花などには「剪る」（筆者注：爪をきるはこの字），布・紙などには「截る」をもちいることがある”，と解説しています。次に，各漢字の解字を新漢語林（電子辞書版）で検索した結果を，以下に引用します。

「切」：七は，縦横にきりつけるさまを示す。七がななつの意味をあらわすようになって，刀を加えて区別した。きるの意味を表す。
「伐」：戈は，ほこの意味。人にほこをあててきる，うつの意味を表す。
「斬」：斤は手おのの象形。車でひき，おので切る刑罰を表す。
「剪」：前（原義は，きりそろえる）が，まえの意に用いられるようになり，刀を加えて，その意義を表す。
「截」：とりをほこで小さくばらばらに切るさまから，きる・たつの意味を表す。

同じ「きる」でも漢字によって意味合いが異なっています。「伐る」は，木ではなく人を対象とした字でした。確かに「討伐」「誅伐」「征伐」などの語句は，人向けで木には使いません。

林業関係の「〇〇伐」

少し回り道をしましたが，『逆引き広辞苑』（第５版）による検索結果（説明文を引用）を表－１に示します。意外なことに，『広辞苑』には林業や木に関係する「〇〇伐」が 20 項目掲載されていました。傘伐など一部の項目では，詳細な説明が掲載されています。さらに，独立した項目ではありませんが，語句の説明内に「予備伐」「下種伐」「後伐」などの語句もありました。『（逆引き）広辞苑』に掲載されている「〇〇伐」は，わりと網羅的に掲載されています。これですべての〇〇伐が把握できるようにもみえます。

表－１　『逆引き広辞苑』に掲載されていた林業関係の「〇〇伐」

語句	説明
皆伐（かいばつ）	森林の樹木を一度に全部伐ること。　→択伐
画伐・劃伐（かくばつ）	森林に一定の区画を定めて，その区域内の樹木を伐ること。
間伐（かんばつ）	森林手入れ法の一。立木密度を疎にし，残った木の肥大成長を促し，森林全体を健康にするため，林木の一部を伐採すること。すかしぎり。疎伐。
禁伐（きんばつ）	樹木の伐採を禁ずること。　→禁伐林
採伐（さいばつ）	材木を伐（き）り出すこと。伐採。
傘伐（さんばつ）	森林を漸次伐採し，10～15 年をかけて天然更新する法。まず林床に日光をうけさせるよう疎伐し（**予備伐**），次に２割位を伐り（**下種伐**），飛散した種子から生じた稚樹が生長して霜の害がなくなる頃残存木をすべて伐採して（**後伐**），新林を形成する。ドイツで発達した技術。
斬伐（ざんばつ）	①木を切ること。②切り殺すこと。
受光伐（じゅこうばつ）	森林手入れ法の一。森林を伐（き）り透かして，生長の盛んな林木を残存させ，これに広い占有面積と十分な日光を与えること。
主伐（しゅばつ）	林業で，伐期に達した樹木を伐ること。
除伐（じょばつ）	幼齢林の手入れの一。不用の樹木を伐り除くこと。
剪伐（せんばつ）	木の枝などをはさみ切ること。
選伐（せんばつ）	更新または利用の目的で，立木を選択して切ること。
漸伐（ぜんばつ）	造林法の一。広域の天然下種（かしゆ）更新を行うための伐採方法。傘伐・画伐などの数回の伐採によって収穫を行い，森林を更新するもの。
疎伐（そばつ）	間伐に同じ。
択伐（たくばつ）	樹木が健全に育ち，後継樹が順調に生え育つよう，不良木や老木・衰弱木を伐採すること。
盗伐（とうばつ）	公有または他人の所有する山林から竹木をひそかに伐りとること。
年伐（ねんばつ）	年々の伐採。　→輪伐
伐	①木などをきること。「伐採・濫伐」　②～④（略）
濫伐・乱伐（らんばつ）	山や林の樹木をむやみに伐採すること。
輪伐（りんばつ）	年々，森林の一部ずつを順次に伐採してゆくこと。

※逆引き広辞苑の説明文を引用，「→」以降の用語のひらがなよみは省略している　※「説明」内のゴシック体は筆者による

しかし，『逆引き広辞苑』に掲載されていない「〇〇伐」があります。例えば，「本数調整伐」です。本数調整伐は，保安林改良における間伐に相当するものです（除伐としていることもあります）。治山分野の中で用いられているため，林業関係者でもこの用語を知らない人がいます。「本数調整伐」の資料（林野庁ウェブページ http://www.rinya.maff.go.jp/，2020 年 12 月確認）では，「本数調整伐は，森林全体の健全な成長を図るため，育成単層林及び育成複層林の下木のうち不要な樹木を伐採するものである。これによって，保残木の個体の成育を促すとともに，林内，林床に適度の陽光を入れて，林床植生の生育促進を図り，土壌緊縛力及び地表浸食の防止効果を向上させることができる」とありました。また，Wikipedia（アドレス表記省略，2020 年 12 月確認）では「伐採」の項目内に本数調整伐の説明があり，「日本独自の用語。主として治山事業において行なわれる伐採の名称であり実際の施業は間伐に酷似するが，主目的が当該保安林機能の維持増進である」とあります。治山分野で使用されている用語であるため，『広辞苑』などには記載されていません。

林業用語集における「〇〇伐」

『逆引き広辞苑』に掲載された「〇〇伐」が，林業用語集においてどの程度掲載されているかを調べました（表－２）。検索に用いた用語集は，『現代林業用語辞典』（2007 年発行，購入不可）と，項目数も多く現在でも購入可能な『新版森林総合科学用語辞典』（2015 年発行）です。両辞典において項目として掲載されていた場合，表中においてその解説を引用しました。

また，表－２には，両辞典に掲載がなく，専門書やウェブサイト，文献検索の際に新たに見つけた用語も掲載しました（「伐」は除外）。専門書としては朝倉書店の『造林学』（1965 年発刊）と『造林学第四版』（2016 年発刊）を，一部の用語については日本林業調査会の『森林・林業・木材辞典』（1993 年発刊）を参照しました。ただし，新発見用語では詳細な解説がないものもあり，ここでは列記するに留めています。

『新版森林総合科学用語辞典』は，『現代林業用語辞典』に比べて，掲載されている〇〇伐の数が多いです。両辞典で共通して項目解説されているのは，「皆伐」「間伐」「傘伐」「主伐」「除伐」「漸伐」「択伐」でした。傘伐（漸伐）は皆伐・間伐・主伐・除伐に比べると，会話や書類で見たり聞いたりする機会が少ない印象を受けます。しかし，『高等学校用　森林経営』（教科書）の索引には「傘伐作業」「漸伐作業」と掲載されており，用語としては農業高校の段階で知る機会があります。

両辞典において，「禁伐」「採伐」「斬伐」「剪伐」「年伐」は掲載されていませんでした。これらの用語は，ある目的に即した林業作業を表すより，一般的な行為（木を伐らないなど）を表す意味合いが強いものです。「本数調整伐」は，どちらの辞典にも項目が記載されていませんでした。ただし，『新版森林総合科学用語辞典』にある「保育間伐（保育伐）」が，これに近い意味合いかもしれません。同様に，「画伐」も掲載されていませんでした。

インターネット上の辞書検索サイトであるコトバンク（https://kotobank.jp/，2020 年 12 月確認）において「画伐」を入力すると，『デジタル大辞泉』『大辞林第三版』『精選版日本国語大辞典』『世界大百科事典』において説明が表示されました。画伐は，林業ではなく一般的な辞典・事典に掲載されている傾向があります。ちなみに，林業用書籍『森林・林業実務必携』では，「画伐作業法」として索引に掲載されています。

『現代林業用語辞典』には掲載されていなかった「受光伐」は，『高等学校用　森林経営』や『森林・林業実務必携』の索引にもみられません。そのほか，造林学の教科書の索引にも掲載されていません。「受光伐」は複層林施業の話において用いられるのですが，教科書に項目解説がないのは不思議です。ちなみに，コトバンクにおいて「受光伐」と入力すると，『デジタル大辞泉』『大辞林第三版』『精選版日本国語大辞典』において説明が表示されました。受光伐は，専門書というより辞典や用語集で説明されている傾向にあります。さらに，『新版森林総合科学用語辞典』には受光伐の説明がありましたが，その前身である 2012 年発行の『学生たちとつくった学生のための森林総合科学用語辞典』には，受光伐の項目はありませんでした。しかし，受光伐は最近できた用語ではなく，1993 年発行の『森林・林業・木材辞典』にはすでに説明があります。

論文等における「〇〇伐」

これまで収集した「〇〇伐」の論文等への掲載状況について，国立研究開発法人科学技術振興機構が運営・公開しているインターネット論文検索サイト「科学技術情報発信・流通総合システム（J-STAGE）」（https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja；2020 年 12 月確認）を使って検索しました。表－３には，各用語について文献の検索件数ならびに掲載最古年と掲載最新年を掲載しました。検索件数については，間伐，後伐，年伐について，それぞれ「〇〇の期間伐採」「其ノ後伐採」「〇〇年伐採」など本来の用語として使われないケースがあるため，タイトル，抄録，キーワードを指定した絞り込み検索での件数を掲載しました。最古と最

表－２a　林業用語辞典に掲載されている語句との対応　一部の項目における解説については，抜粋している

項目	現代林業用語辞典（2007）	新版森林総合科学用語辞典（2015）
皆伐	一定範囲の樹木を一時的に全部または大部分伐採すること。主伐の一種。伐採及び跡地の造林が容易になる反面,森林の一時的喪失による公益的機能の低下などに留意する必要がある→択伐,傘伐	立木の伐採法の一つ。伐採対象林分にある全ての伐採対象木を伐採する方法。一度に多くの木材を得ることが可能だが，森林の機能は一時的に殆ど失われる。＞択伐，傘伐
画伐	記載なし	記載なし
間伐	育成過程の林分で，樹木（林木あるいは立木）の利用価値の向上と森林の有する諸機能の維持増進を図るため,目的とする樹木の密度を調節する伐採のことをいう。抜き切（伐）りともいい，間伐した材を間伐材という。一般に，除伐後，主伐までの間に育成目的に応じて間断的に行われる。→上層間伐，下層間伐，利用間伐	保育作業の一つ。森林の成長過程で過密化する立木を間引く作業。立木密度の管理，成林途上における林家の収入確保等の目的をもつ。すかしぎり，疎伐とも。近年では択伐と混同して用いられることも多いが誤用。＞間伐材，下層間伐，列状間伐，定量間伐，定性間伐優勢木間伐，林床，巻枯らし
禁伐	記載なし	記載なし
採伐	記載なし	記載なし
傘伐	森林（林分）内の光環境を考慮しながら，主伐を何回かに分けて行うこと。森林施業法の１つ。通常は，予備伐，下種伐，後伐に分けて段階的に成熟木を伐採する。伐採後，親木から落下した種子が,親木の傘の範囲で稚樹として成長するところから傘伐という。漸伐または順次伐ということもある。→漸伐，皆伐，択伐	林木の伐採方法の一つ。森林内の光環境を考慮し，主伐を数度に分けて行う。一般には，予備伐→下種伐→受光伐→終伐を段階的に実施。これらのうち，受光伐と終伐を併せて後伐※1と呼ぶことも多い。天然更新が前提となる伐採方法であるため，母樹が残され，母樹の傘のもとで稚樹が育つことから傘伐と呼ばれる。漸伐，順次伐とも。＞皆伐，択伐 注：※1殿伐とした例もある（『造林学第四版』より）
斬伐	記載なし	記載なし
受光伐	記載なし	樹木の成長を促進させるため，森林内の成長の悪い樹木を間引き，残存木の受光量を増大させるために実施される伐採。＞傘伐
主伐	建築材等に利用できる時期（伐期）に達した樹木を伐採・収穫すること。基本的に，次世代の樹木の育成（更新）を伴う伐採で，更新伐採ともいい，更新を伴わない間伐などとは区別される。→伐期	林木の収穫および更新を目的として行われる，伐期に達した成熟木の伐採。＞間伐，傘伐
除伐	育成対象となる樹木（林木）の生育を妨げる他の樹木を切り払う作業。一般に，下刈りを終了してから,植栽木の枝葉が成長して互いに接し合う状態になるまでの間，数回行われる。	保育作業の一つ。下刈り終了後に造林木の生育の支障となる立木を除去する作業。下刈りとともに，造林木の成長を左右する重要な作業。＞巻枯らし
剪伐	記載なし	記載なし

※「→」「＞」は辞典に掲載されている記号をそのまま記載

表－２b　林業用語辞典に掲載されている語句との対応（つづき）

項目	現代林業用語辞典（2007）	新版森林総合科学用語辞典（2015）
選伐	記載なし	記載なし
漸伐	林分を数回(または十数回)に分けて伐採利用し，林内へ同じように後継樹を育てる森林施業法のこと。成熟林を伐り終わると，ほぼ同齢の幼齢林になるように努める。傘伐及びこれに類する施業法を総称して漸伐という。→傘伐	→傘伐
疎伐	記載なし	→間伐
択伐	森林(林分)内の樹木の一部を抜き伐りすること。森林施業法の１つ。成熟木を数年～数十年ごとに計画的に択伐することにより，林分の状態を大きく変化させずに，持続的に森林を管理・経営できる。→皆伐，漸伐，傘伐	伐倒木を選択して実施される林木の伐採方法。単木的に，あるいは群状に実施。立木の大小や老幼を含めて全体から万遍なく伐採木を選定し，林分全体として，元の林型が大きく変わらないように配慮しながら，持続的な伐採を可能とする。＞皆伐，傘伐，択伐林，群状択伐，点状択伐，間伐，照査法
盗伐	記載なし	他者の保有する樹木を許可なく伐採して盗み出すこと。スマリングとも。＞違法伐採
年伐	記載なし	記載なし
濫伐・乱伐	記載なし	立木の無秩序・無計画な伐採。
輪伐	記載なし	林分を伐区に区画し，一区画ずつ順に伐採を行う方法。＞輪伐期，輪作，順伐山，法正林
逆引き広辞苑にない用語		
保育間伐／保育伐	記載なし	保育作業の一つ。間伐材の販売を目的とせず，植栽木の保育を目的として行われる間伐。保育伐とも。捨て伐り間伐とほぼ同義。＞利用間伐，定性間伐，定量間伐
釿伐（きんばつ）	記載なし	拡大造林期以前に国有林で実施された直営素材生産事業。
再伐（さいばつ）	記載なし	→複伐
複伐（ふくばつ）	記載なし	一輪伐期内に２回以上の主伐を行うこと。再伐とも。
（追加）２つの辞典に掲載されていない，専門書などで新たに見つけた用語		
残伐※1／解除伐※2／殿伐（でんばつ）※3／一伐（皆伐）二伐（残伐）三伐（傘伐）※4／多伐※5／終伐※6／植伐※6／前伐※6／全伐※6／整理伐※6／保残伐※6／本数調整伐※7		

※1 最初の伐採時に少数の立木を母樹として残し，そこからの天然下種によって更新を図る。稚樹の定着後，残された木は伐採される（朝倉書店『造林学第四版』より）。　※2 保安林の指定の解除を行った森林における，普通林としての立木の伐採（『森林・林業・木材辞典』より）。※3 最後に行う後伐（S40 年刊行朝倉書店『造林学』より）。※4 1 伐期中で行う主伐の回数で区分（同『造林学』より）。※5 一定の伐期を定めることなく，また主伐間伐の区別なく，しばしば伐採を繰り返すもの（同『造林学』より）。※6 論文検索中にヒットしたもの。※7 林野庁ウェブページ参照

新の掲載年については，全文検索の結果を記載しています（本来の用語として使われないことが想定された文献については用語の使われ方を直接確認しましたが，一部の用語では件数が多すぎるため確認できませんでした）。

「皆伐」「間伐」「主伐」「択伐」は論文等でよく使われる用語であり，ヒット数が 10^2～10^3 オーダーでした。皆伐，択伐についてはともに 1898 年の文献に記載されており，間伐・主伐は 1900 年代初等の文献に記載されていました。このほか，1800 年代後半の論文に掲載されていた用語としては，「採伐」「斬伐」「剪伐」「擇伐」「盗伐」「濫伐」「輪伐」があげられます。これらのうち，「輪伐」「盗伐」「擇伐」「濫伐」以外の用語は林業用語集にその記述がみられないことから，昔利用されていた用語が現在では利用されなくなったことがわかります。また，「釿伐」や「解除伐」は，論文では使われていない用語でした。用語集に解説のない「画伐」「本数調整伐」「整理伐」や「保育伐」「複伐」などが，検索したなかで初めて記載されていました。これらの用語は，比較的新しい概念と用語利用がなされたグループと位置づけられます。

ここで，林業分野の普及誌の中で最も古くから発行されている，大日本山林会が刊行している『山林』においても，用語の出現状況について調べました。現在，『山林』は第 1 号から PDF ファイルの検索ができるようになっています（http://www.sanrinkai.or.jp/；2020 年 12 月確認）。『山林』における掲載最古年と掲載最新年の年代を表－３にあわせて掲載しました。「皆伐」「間伐」「択伐」については，『山林』で古い文献がヒットし，2020 年でも使われています。また，「禁伐」「疎伐」「択伐」「盗伐」「年伐」「濫伐・乱伐」「輪伐」も 1880～1900 年の文献が最も古いものでしたが，輪伐を除いて 1950 年代以降の文献には掲載されていませんでした。なお，『山林』では，本数調整伐や保育伐などの用語はありませんでした。ちなみに，濫伐や盗伐の検索件数が 2 桁なのは，関心の高い出来事が反映していたのかもしれません。

表－３a　J-STAGE 検索による論文等の文献と『山林』における各用語の検索件数と掲載年

用語	J-STAGE	論文等掲載（全文検索による）		『山林』	『山林』掲載	
	絞り込み検索件数	最古年	最新年	検索件数	最古年	最新年
皆伐	663	1898	2020	39	1884	2020
画伐・劃伐	画伐 5	1951	2019	画伐 3	1918	1919
	劃伐 2	1924	2006	劃伐 0	－	－
間伐	1,813	1908	2020	175	1904	2020
禁伐	20	1902	2020	2	1895	1924
採伐	4	1891	2019	2	1901	1929
傘伐	6	1924	2017	2	1909	1933
斬伐	0	1884	※1 1943	0	－	－
受光伐	9	1919	2020	1	1989	－
主伐	201	1924	2020	7	1961	2018
除伐	97	1926	2020	2	1953	1976
剪伐	0	1895	※1 1984	0	－	－
選伐	0	1906	2019	0	0	0
漸伐	15	1927	2017	2	1930	1975
疎伐	0	1909	2010	6	1887	1932
択伐・擇伐	択伐 349	1949	2020	41	1897	2020
	擇伐も同数	1898	1954	1	1925	－

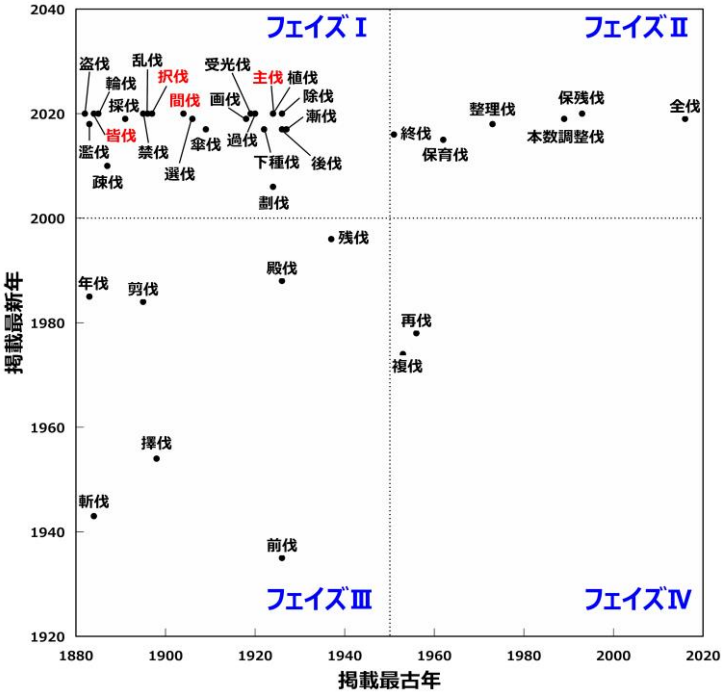
表－３b　J-STAGE 検索による論文等の文献と『山林』における各用語の検索件数と掲載年（つづき）

用語	J-STAGE	論文等掲載（全文検索による）		『山林』	『山林』掲載	
	絞り込み検索件数	最古年	最新年	検索件数	最古年	最新年
盗伐	13	1895	2020	14	1882	1932
年伐	1	1907	1985	1	1883	1939
乱伐・濫伐	乱伐 18	1948	2020	乱伐 3	1896	1939
	濫伐 10	1887	2018	濫伐 12	1883	1944
輪伐	30	1885	2020	4	1887	1997
本数調整伐	4	1989	2019	0	－	－
保育伐	0	1962	2015	0	－	－
釿伐	0	－	－	0	－	－
複伐	1	1953	1974	0	－	－
再伐	0	1956	1978	0	－	－
下種伐	2	1922	2017	0	－	－
前伐	3	1926	1935	0	－	－
後伐	1	1926	2017	0	－	－
全伐	13	2016	2019	0	－	－
終伐	3	1951	2016	0	－	－
残伐	1	※2 1937	1996	0	－	－
保残伐	20	1993	2020	1	2018	－
解除伐	0	－	－	0	－	－
整理伐	7	1973	2018	0	－	－
殿伐	0	1926	1988	0	－	－
一伐※3	0	－	－	0	－	－
二伐※3	1	2013	－	0	－	－
三伐※3	0	－	－	0	－	－
過伐（採）	14	1920	2020	0	－	－
植伐	1	1924	2020	9	1887	1977

※1 過去の文献からの引用文で「斬伐」「剪伐」と記載されている文献は除外した。※2「殘伐」で検索されたもの。※3 本来の使われ方以外の表記が多く，すべての文献を確認することはできなかった。なお，「二伐」については絞り込み検索の際に「散状二伐天然下種更新」のタイトルが表示されたため記載できた。

J-STAGE 検索結果と『山林』検索結果をあわせて，両検索のうち最も古い掲載最古年と，最も新しい掲載最新年を選び，それぞれを軸としたグラフを描きました（図－１）。赤字は J-STAGE 検索のヒット数が 100 以上あるものです。図中の点線は，掲載最古年では戦後の復旧造林が進み始める 1950 年，掲載最新年ではミレニアムの 2000 年に引いたものです。この線により，図－１を４つのフェイズに分けました。「フェイズⅠ」は，1950 年以前（便宜的に「昔」といいます）に使われて 21 世紀（便宜的に「最近」といいます）でもずっと使われている用語，「フェイズⅡ」は，1950 年以降に使われ，そのまま最近でも使われている用語，「フェイズⅢ」は，昔に使われていたが，最近は使われなくなった用語，「フェイズⅣ」は，1950 年以降に使われたが，最近では使われていない用語です。「〇〇伐」は，フェイズⅠに属することが多く，よく使われている赤字の用語もここに属し

ます。フェイズⅡでは，本数調整伐など行政で使われる用語や最近話題となっている保残伐などが属します。フェイズⅢとⅣにある用語は，あまり馴染みがない用語が属しています。文献の掲載年数から，「○○伐」の使われ方を区分することができました。



図－１　各用語の論文や普及誌における掲載最古年と掲載最新年の分布

「○○伐」の使われ方もいろいろある

以上，「○○伐」用語の掲載状況について述べました。最初は『逆引き広辞苑』からスタートしましたが，調べれば調べるほど，「○○伐」という用語が増えていき，表の行数も増えました。ここでは「定性間伐」「列状間伐」などは「間伐」としてひとまとめに扱いましたが，本稿で掲載した以外にも「○○伐」はまだまだありそうです。そして，林業用語集などの掲載状況から，用語の取り扱いが変化している様子も窺えます。さらに，基本的な○○伐である「主伐」「間伐」「択伐」「皆伐」は，林業用語集において確実に掲載されている項目であり，その利用も 1800 年代後半から 1900 年初頭にかけてと古い歴史をもっていました。一方，「本数調整伐」や「解除伐」など，行政で使われるような用語は，林業用語集に記載がありません。ちなみに，「本数調整伐」は最近の論文になって使われているのが確認されました。「採伐」「剪伐」などは過去の論文では使われていたものの，現代の林業用語集では取り上げられていませんでした。「画伐」や「受光伐」は現在の論文等でも使われている用語ですが，掲載していない林業用語集がありました。俯瞰してみると，「○○伐」もその扱いが用語集や教科書などの媒体によって異なっていることがわかりました。

林業，そして木を伐る行為は，はるか昔から行われてきた営みです。それに付随する用語には，時代とともに使われ続けるもの，忘れさられそうになるもの，ほぼ忘れられたもの，言い換えられたもの，使用が限定されるもの，新しく造語されたもの，などがあります。林業の歴史を振り返るうえで，こうした用語に焦点をあてる林業史的な研究も面白いテーマになるかもしれません。そして，現在はほとんど使われなくなった古い用語を，できるだけ辞典・事典に記載することは言葉の保存につながり，種の保存とともに重要な意味を持つと考えます。

（保護種苗部　育種育苗グループ）